

平成 17 年 2 月 28 日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
(コード番号 8 3 1 6)

平成 17 年 3 月期 連結業績予想及び配当予想の修正について

当社は、今年度を「バランスシートのクリーンアップ」の総仕上げの年と位置づけ、不良債権残高の削減等に積極的に取り組んでまいりましたが、来年度以降の業績回復を確実なものとすべく、不良債権問題に最終決着をつけ、将来的なリスク要因を大幅に削減させるために、不良債権及び有価証券に係る財務上の一段の処理を実施することといたしました。

この結果、前回公表しました平成 17 年 3 月期連結業績予想を以下の通り修正します。また、これに伴いまして、経営の安定性確保の観点から社外流出を抑制する必要があると判断し、平成 17 年 3 月期末の普通株式 1 株当たり配当予想については、誠に遺憾ではございますが、以下の通り、前回公表しました配当予想対比 1,000 円減額し、前年度実績と同水準にさせていただきます。

記

1. 平成17年3月期 連結業績予想の修正

(単位：億円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想〔平成16年11月〕 (A)	34,500	4,700	1,800
今回修正予想 (B)	34,500	400	2,400
増 減 額 (B - A)	-	5,100	4,200

(注)当社単体の業績予想に修正はありません。

2. 平成17年3月期 配当予想の修正 (普通株式)

(単位：円 / 1 株当たり)

	期 末	年 間
前 回 予 想〔平成16年11月〕 (A)	4,000	4,000
今回修正予想 (B)	3,000	3,000
増 減 額 (B - A)	1,000	1,000
(ご参考) 平成16年3月期実績	3,000	3,000

(注)第一種、第二種、第三種及び第四種優先株式の配当予想に修正はありません。

以 上

【本件に関するお問合せ先】

広報部 古館 T E L : 03 - 5512 - 2678

(ご参考)

1. 三井住友銀行の単体業績予想(平成17年3月期)

(単位:億円)

	今回予想()	前回予想()	増減額 (-)
業務純益(一般貸倒引当前)	9,200	9,800	600
経常利益	700	4,400	5,100
当期純利益	1,300	2,500	3,800
与信関係費用	9,500	6,500	3,000

【業務純益】

業務純益(一般貸倒引当前)は、将来的なリスク要因の削減のために、国債等債券に係る含み損処理を行うことを主因として、前回予想比約 600億円の減益となる見込み。但し、上記含み損処理影響を除いたベース収益は、概ね前回予想通りとなる見込み。

【与信関係費用】

本年度末における不良債権比率の半減目標を達成し、来年度以降の与信関係費用を確実に巡航速度化させるべく、これまで以上に保守的なスタンスに立脚して、将来リスクへの対応強化や最終処理の実施を行うことから、与信関係費用は、前回予想比約3,000億円増加し9,500億円程度となる見込み。

前回予想比 増加額の内訳	将来リスクへの対応強化	約+2,500億円
	・債務者区分の引下げ等	+1,300億円
	・要注意先等の引当強化(引当率の引上げ)	+1,200億円
	最終処理に伴うオペレーション化関連コスト等	約+500億円

この不良債権処理の実施により、将来的な与信関係のリスク要因は削減され、来年度以降の与信関係費用は大幅に減少し、確実に巡航速度化する見込み。

【優先株の減損処理等】

債務者の金融支援目的で過去に取得した優先株式についても、リスク削減の観点からのコストを見込む。

【当期純利益】

上記の要因から、前回予想比約 3,800億円減益の 1,300億円の当期純損失となる見込み。

<参考> 三井住友フィナンシャルグループの連結業績予想(平成17年3月期)

(単位:億円)

	今回予想()	前回予想()	増減額 (-)
経常利益	400	4,700	5,100
当期純利益	2,400	1,800	4,200
与信関係費用	12,000		

連結当期純利益は、三井住友銀行(単体)の業績下振れを主因として前回予想比約 4,200億円減益の 2,400億円の当期純損失となる見込み。なお、連結当期純損失が三井住友銀行(単体)比1,000億円強多いのは、連結ベースにおいても財務体質強化を図るべく、ローン保証業務を営む子会社で引当金の増強を図ったことが主因。

2. 三井住友銀行の金融再生法開示債権の見込（平成17年3月末、単体）
（単位：億円、％）

	17/3末見込	16/9末実績	16/3末実績
金融再生法開示債権	20,000程度	24,844	28,112
不良債権比率	3％台半ば	4.4％	5.0％

14/3末(8.9%)比 約6割の減少	15/3末実績	14/3末実績
	52,613	59,203
	8.4％	8.9％

17/3末は16/3末比約8,000億円減少し、不良債権比率は3％台半ばに低下する見込み
削減目標（17/3末の不良債権比率を14/3末比半減）は超過達成

また、金融再生法開示債権のみならず、要注意先債権のうち金融再生法開示債権に
該当しない債権の17/3末残高も、14/3末比では約 5.5兆円、約7割減少の2.5兆円程度
となる見込み。従って、ポートフォリオ全体としてのリスクも大幅に軽減している。

3. 三井住友銀行のその他有価証券評価損益の見込（平成17年3月末、単体）
（単位：億円）

	17/3末見込	16/9末実績	16/3末実績
その他有価証券評価損益	5,900	4,576	5,563
株式	6,000	5,589	6,511
債券	0	622	1,019
その他	100	391	71

（注）直近の相場等を前提にした試算値（減損処理後）であり、今後の状況によって変動いたします。

4. 三井住友フィナンシャルグループの連結自己資本比率の見込（平成17年3月末）

	17/3末見込	16/9末実績	16/3末実績
連結自己資本比率	9％台	10.93％	11.37％

17/3末の連結自己資本比率は、連結当期損失となることから一時的に9％台となる
見込みであるが、今回の財務処理により将来的なリスク要因は大幅に削減され、来期
以降は確実な業績回復が見込めるため、早期に10％以上の水準に回復する見込み。

以上

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化し得ることにご留意ください。